

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	環境都市工学総合演習 I I
科目基礎情報					
科目番号	20439		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	環境都市工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	専門科目に対するプリント				
担当教員	環境都市工学科 全教員				
到達目標					
1. 構造力学の基礎知識の実務への適用の考え方を理解できる。 2. 土質力学の基礎知識の実務への適用の考え方を理解できる。 3. 水理学の基礎知識の実務への適用の考え方を理解できる。 4. 都市計画・交通計画の基礎知識の実務への適用の考え方を理解できる。 5. 土木材料・構造学の基礎知識の実務への適用の考え方を理解できる。 6. 環境工学の基礎知識の実務への適用の考え方を理解できる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標項目 1		構造力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	構造力学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できる。	構造力学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できない。	
到達目標項目 2		土質力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	土質力学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できる。	土質力学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できない。	
到達目標項目 3		水理学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	水理学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できる。	水理学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できない。	
到達目標項目 4		都市計画の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	都市計画・交通計画の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できる。	都市計画・交通計画の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できない。	
到達目標項目 5		土木材料・構造学の基礎学力と知識を理解するとともに実務へ適用の考え方を理解できる。	土木材料・構造学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できる。	土木材料・構造学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できない。	
到達目標項目 6		環境工学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	環境工学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できる。	環境工学の基礎学力と実務への適用の基礎を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4 創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1 専門(土木工学)					
教育方法等					
概要	本授業は、各専門科目に関する基礎学力と知識の確実な定着および実務への適用の考え方の理解を図るため、それぞれの科目の復習のための講義をおこなうとともに社会資本整備に関する実務（企画、立案、調査、設計、施工、維持管理など）への適用に関する演習を行う。 ※実務との関係 この科目は、企業で社会資本整備に関する実務を担当していた教員が社会資本整備に関する実務への手清の考え方について講義形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	基本的に講義を行うが、適宜必要な演習問題や課題を与える。 【関連科目】 構造力学ⅠⅡ、土質力学ⅠⅡ、水理学ⅠⅡ、都市計画、交通計画、コンクリート工学、コンクリート構造学、鋼構造学、環境システム工学				
注意点	復習を心がけ、疑問点は授業時間内や放課後に積極的に質問すること。 多くの演習を行うので、必ず自分で解いてみること。 最近の環境問題を知り、自分の意見を考えること。 【評価方法】 小テスト、課題を実施する 小テスト30%、課題70% 評価基準として、成績60点以上を合格とする。				
テスト					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	構造力学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（1）	構造力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	
		2週	構造力学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（2）	構造力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	
		3週	構造力学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（3）	構造力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	
		4週	土質力学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（1）	土質力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	
		5週	土質力学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（2）	土質力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	
		6週	土質力学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（3）	土質力学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。	

後期	2ndQ	7週	水理学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（1）	水理学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。
		8週	水理学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（2）	水理学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。
		9週	水理学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（3）	水理学の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。
		10週	都市計画の復習およびまちづくりの実務への適用に関する演習（1）	都市計画の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。
		11週	交通計画の復習および交通施設の計画・立案の実務への適用に関する演習（1）	交通計画の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。
		12週	交通計画の復習および交通施設の計画・立案の実務への適用に関する演習（2）	交通計画の基礎学力と知識を理解するとともに実務への適用の考え方を理解できる。
		13週	コンクリート工学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（1）	コンクリート工学の基礎学力と知識を理解するとともに実務へ適用の考え方を理解できる。
		14週	コンクリート工学の復習および構造物の設計への適用に関する演習（2）	コンクリート工学の基礎学力と知識を理解するとともに実務へ適用の考え方を理解できる。
		15週	鋼構造学の復習および構造物の設計への適用に関する演習	鋼構造学の基礎学力と知識を理解するとともに実務へ適用の考え方を理解できる。
	16週			
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
7週				
8週				
4thQ	9週			
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		小テスト	課題	合計	
総合評価割合		30	70	100	
基礎的能力		0	0	0	
専門的能力		30	70	100	
分野横断的能力		0	0	0	